



# Salon

Vol.97 2015年7月 夏号



ホール2Fホワイエ壁画 ポール・ギアマン作「野外のヴァイオリニスト」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — セルゲイ・カスプロフ
- 03 Phoenix Presents — レクチャーコンサートピアノはいつピアノになったか? 補遺
- 05 Pick Up
- 07 Memories of 20 seasons — メモリアルインタビュー 岡崎真雄 館長
- 11 Essay de say — カンタービレ ~歌うように~ 幸田浩子

# 鬼才 アファナシエフが絶賛 11月日本デビューするロシア出身ピアニスト セルゲイ・カスプロフさん



作品への深い洞察力と確かなテクニックを土台としつつ、豊かなコントラストに彩られた個性的な響きの世界を構築して話題のロシアのピアニスト、セルゲイ・カスプロフが11月に初来日。ザ・フェニックスホールの注目アーティストシリーズに登場し、ムソルグ斯基『展覧会の絵』にストラヴィンスキーやペトルーシュカからの3楽章、ラフマニノフとスカルラッティのソナタなどを配した独創的なプログラムに挑む。文筆も手掛けるロシアの巨匠ピアニスト、ヴァレリー・アファナシエフをして、自著『ピアニストのノート』で「現代の若手奏者でベスト」と激賞せしめたことから、一気に注目度が高まった実力派。「私にとって、コンサート自体がコミュニケーションの手段であり、聴衆に対するメッセージ。だから、言葉によるメッセージは、意味を成さない」「舞台芸術の主流からは、常に一線を画したい」…音楽について語った骨太な言葉の数々は、アファナシエフに続く鬼才の出現を確信させる。

(取材・文:寺西 肇/音楽ジャーナリスト)

## セルゲイ・カスプロフ (Sergey Kaspov/ピアノ)

1979年モスクワ生まれ。モスクワ音楽院でピアノと古楽器をアレクセイ・リュビモフ、オルガンをアレクセイ・パンシンに師事し卒業。その後、パリのスコラ・カントルム音楽院でイゴール・ラスコのもとで研鑽を積む。カスプロフは、主にロシア、フランス、ベルギー、ドイツ、ポーランドを中心に演奏活動を行っており、世界的に有名な音楽祭にも招待されている。2000年シュロスグランフェネック(オーストリア)で開催された「ロシアの季節」、2001年には同国でザンクトガレン・シュタイアーマルク、同年、ウィーンのメトリンクでシェーンベルク・フェスティヴァルに登場。その後も、2004年にはコンテンポラリー音楽のフェスティヴァルである「モスコフスカヤ・オーセン」、2006年にモスクワの「アンティクリアリウム」、フランスのミュージカル・インター・ショナル・ギル・デュランス、ルール・ピアノ・フェスティヴァル2008などにも出演。さらに、2009年には、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭(フランス)、クララ音楽祭(ベルギー)、「ショパンと彼のヨーロッパ」国際音楽祭(ワルシャワ)、翌2010年には、シテ・ドゥ・ラ・ミュジーク(パリ)でエマニュエル・クリ

ヴィヌ指揮のもと、リストのピアノ協奏曲第2番を演奏し、大絶賛される。録音については、「ソナタ&トランスクリプションズ」(アートクラシック、モスクワ)を発表。収録曲は、スカルラッティの「ソナタ」、ハイドンの「ソナタ第31番」、スクリャービン「2つの詩曲 作品69」、サン=サーンス作曲リスト/ホロヴィツ編「死の舞踏」、そしてリスト作曲ブゾーニ/ホロヴィツ編の「メフィスト・ワルツ」である。

また、これまでにサンクトペテルブルク交響楽団、モスクワ国立交響楽団など多くの著名なオーケストラと共に演奏を果たしている。

### コンクール受賞歴:

- 2005年ホロヴィツ記念国際ピアノコンクール(キエフ)特別賞
- 2006年マリア・ユーディナ国際ピアノコンクール(サンクトペテルブルク)最高位
- 2006年ニコライ・ルービンシュタイン国際ピアノコンクール(パリ)第1位
- 2007年スクリャービン国際ピアノコンクール(パリ)第1位
- 2008年スヴァトスラフ・リヒテル国際コンクール(モスクワ)モスクワ市政府賞

「セルゲイ・カスプロフ ピアノリサイタル」は、2015年11月14日(土)午後4時開演。入場料3,000円(指定席)、友の会2,700円。学生1,000円(限定数)。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問い合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝除く平日10時~17時)。

[プログラム]スカルラッティ:ソナタ 慢へ長調 K319、口短調 K87、ホ長調 K162、ヘ長調 K17 ラフマニノフ:絵画的練習曲集 作品33より 第2曲 ハ長調、第5曲 二短調、第6曲 変ホ短調/ソナタ 第2番 変口短調 作品36(1931年 改訂版) ストラヴィンスキーやペトルーシュカ:ムソルグ斯基:組曲「展覧会の絵」(予定)

## フェニックス・ファンタスティック・ピアニスト・シリーズ セット券販売!

セルゲイ・カスプロフ ピアノリサイタルと10/27(火)イエルク・デームス、11/27(火)ペーター・ヤブロンスキ、12/11(金)藤井快哉(詳細はP5参照)の4公演の中より2公演以上お求め頂きますとチケット料金を10%割引致します(一般券のみ)。

# 伝統に背 演奏に迷いなし

——今回のリサイタルで取り上げる作品について、選曲の意図とは。特にスカルラッティだけが、少し異質な感もありますが…。

私にとって、作曲者の国籍による音楽の関連性は、作品の間に存在する音楽的な繋がりほど重要ではありません。ですから、演奏会のプログラムを構成する場合にも、音楽的な論理に基づくように心がけています。例えば、スカルラッティのソナタは、反復構造を基本とした、とても特殊な語法を用いている点で、ストラヴィン斯基の作品と強く関連付けられます。そして、『ペトルーシュカ』と『展覧会の絵』は、一種の抽象的とも言えるピアノの特殊な用法によって、私の頭の中では、とても近しい存在です。ここで、ピアノは単に色彩感を表現したりするという以前に、音楽を伝達する第一の“手段”として取り扱われています。さらに、当然のことながら、ラフマニノフのハーモニーの語法は、ムソルグスキイと多くの関連性を持っていますよね。

——初めての来日公演。日本にはどのようなイメージがありますか。

日本には、まだ行ったことすらありません。ですから、私のこの国に対する主なイメージは、映画や文学に基づいています。そして、残りは、これまでに私が日本について見聞きした、様々な印象を寄せ集めたコラージュのような感覚、と表現できましようか。

——今回の来日では、ラフマニノフ『パガニーニの主題による狂詩曲』で東京交響楽団とも共演されます。オーケストラとの演奏とソロ・リサイタル、演奏への意識は違ってきますか。

オーケストラとの共演は、ピアノとオーケストラ、あるいはソリストと指揮者が拮抗して協奏する類のものではない。当然ですよね。この場合、ピアノはオーケストラの楽譜の一部を担って、有機的に絡み合うとともに、決して陰に隠れるようなことがあってはならない。そういうオーケストラとピアノの共演に比べると、ソロ・リサイタルは当然ながら、自分自身で全ての有機的な構造を感じ取つてゆかねばならない訳で、一種の「公衆における孤独」とでも申せましょう。

——音楽との出会いは?

どちらかと言えば、自発的でしたよ。物心が付いたばかりの幼い頃から、とにかく音楽を聴くのが好きでたまりませんでした。私が聴いていた“メニュー”は幅広くて、クラシックから、ロックやポップスにまで及びました。いいや、単にビニール製のターンテーブルが好きだっただけかも分かりませんが…(笑)。当然ながら、「即興演奏」にも挑戦しましたよ。でも、その時は誰も楽譜の読み方や演奏の方法を教えてくれず、ピアノをでたらめに叩いたりしているだけでした。本格的な教育を受け始めたのは、今日の幼児教育の常識からすればかなり遅い、6歳頃のこと。それも、才能の片鱗すら見せ

ずにいて、とても長い間、私は本格的な作品に取り組むこともなかつたですね。

——プロの演奏家になろうと決心したのはいつ、どんなきっかけから?

12歳の頃に、オルガンも習い始めました。そしたら、私はたちまちこの楽器と恋に落ちて(笑)。数年後には「絶対オルガニストになる。他には考えられない」と決めてしまいました。当時の私は、かろうじてオルガンと呼ぶことができるような、ちゃちな楽器を弾いていたので、思い出すのも恥ずかしいんですが…だって、側面にアンプが付いていて、時間が経つごと、音が鳴らない鍵盤がどんどん増えていったんですから(笑)。でも、私の熱中ぶりたるや、物凄かった。お陰で、ピアノとオルガン、両方の本格的な勉強を続けられたんです。もちろん、ピアノは全ての基本ですから、そちらに力を入れざるを得ませんでした。さらに、私の次の“革命”は、ウラディミール・ホロヴィツの弾くラフマニノフの録音を聴いた瞬間に訪れました。ピアノ演奏と音楽的なテクストに対峙する姿勢が、それまでに私が教わり、聴いて来た他のどの演奏家とも、全く違っていることを実感しました! その時こそが、まさにピアノ演奏とは何かを悟った瞬間だったのです。

——ロシア・ピアノ楽派の伝統を意識しますか。

音楽に限らず、あらゆる場から伝統と言う存在は、むしろ消え去りつつあると私自身は感じています。例えば、もしもラフマニノフや、アントン・ルビンシテイン(※1)に学んだホフマン(※2)らロシア・ピアノ楽派の伝統に基づく見事な模倣をしてみせたとしても、もはや今日のピアノ演奏の主流にはなり得ないし、それどころか、完全に逆行するようにすら、思えるんです。

——あなたがピアノを演奏する上で、最も大事にしていることは?

音楽することに迷いを持たず、楽器の助けを借りようとしないことですね。

——歴史的鍵盤楽器も学ばれましたが、モダン演奏にも生きていますか。

もちろん、私はその影響を強く感じています。アーティキュレーション、アゴーギグ…歴史的奏法から現代のピアノ演奏へと移植することが可能な要素が、いかにたくさんあることか。例えば、チェンバリストのアゴーギグは、100年前のピアノ奏法と極めて近いように思えます。古楽はまた、音楽の捉え方と理解の方法を変化させてくれます。概して、現代奏法よりも“重さ”がなく、陳腐な表現に陥ることがありません。

——ジャズやロックも、お好きだそうですね。

ジャズやロックは、今日のクラシック演奏家のパフォーマンスよりも、音楽の本質に近いように思えます。すなわち、作曲が極めて知的な生産行為に

変化する以前の、もっと作曲・演奏と言う自発的な音楽創りにより近い。もっとも、私が心酔しているアート・ティタム(※3)は例外としても、ジャズが私のピアノ演奏に直接の影響を与えているかどうかは、定かではありません。しかし、私にとって、ジャズやロックを聴くことは、作品へ対峙する自分の姿勢を大きく修正するほどの、ある種のひらめきをも時には与えてくれる。例えば、ロックやミニマル・ミュージックを聴いたことで、私が『ペトルーシュカ』の解釈を変化させたのは確かです。

——かつてアーフアナシエフは、私に日本語の「間(ま)」という言葉を使いつつ、音楽における静寂の重要な重要性を強調しました。そして、彼が絶賛したあなたの録音からも、私は「間」を感じ取りました。

私は、まだ音楽の「間」について論じる資格はありません。ただ、私が知る限りでは、この言葉は音楽よりも、視覚的な構成との結びつきが強いように考えています。もちろん、音楽について論じる場合、音楽と演奏者の間に存在する、広い効果について、この言葉を使うべきなのかもしれません。でも、私はもう少し、単純に考えてみたい。私たちがすべきことはただ、音楽と静寂、響きと無音のバランスを取ることです。そして、この静寂の間にも響きを待つ集中し、音楽の勢いを持続しなければなりません。音楽創りの感覚とは、この静寂における「高いウォルテージ」に根差しています。この点で、グレン・グールドは完璧でした。アーフアナシエフは、自身で実践しています。そして、アンドレイ・タルコフスキイ(※4)は映画において、これを「時間感覚の勢い」と表現しました。

——これから挑戦したいレパートリーは? 現代の作品は、如何でしょう。

やりたいことは、たくさんあります。全部やるだけの時間を与えられることだけが、私の願いなのですが。20世紀の作曲家の中で、いま最も興味のある1人を挙げるとすれば、シェーンベルクですね。

——目指す演奏家像とは。

将来について語るのは、実は好きではないんです。どう物事が移り変わってゆくか、誰にも分かりませんから。ただ、舞台芸術の主流や今日のピアノ・コンクールから生み出される全てのもの、そして、消えゆく伝統や演奏スタイルから距離を置き続けるだけは、確かですね。

※1 Anton Rubinstein(1829~94)。ロシア・ピアノ楽派の祖の1人とされる大ピアニストで作曲家。

※2 Josef Hofmann(1876~1957)。ポーランド出身のユダヤ系アメリカ人ピアニスト。ルビンシテイン唯一の弟子であるため、演奏家としては、ロシア楽派直系とされる。

※3 Art Tatum(1909~56)。アメリカのジャズ・ピアニスト。視覚障害がありながらも超絶技巧で、ホロヴィツらクラシックのピアニストからも称賛された。

※4 Andrei Tarkovsky(1932~86)。旧ソ連の巨匠映画監督。代表作に『僕の村は戦場だった』(62)や『惑星ソラリス』(72)などがある。



**7月24日(金)**  
10:00 受付開始  
ザ・フェニックスホール  
友の会優先予約

**7月27日(月)**  
10:00 受付開始  
イーフェニックス  
E-PHX優先予約

**7月28日(火)**  
10:00  
**一般発売**

インターネット予約、ご来店による  
お申込みは7月29日(水)10:00から!

※5階事務所の空調工事の為、8月10日(月)～8月13日(木)までチケットセンターは休業させて頂きます。

■レクチャーコンサートシリーズ26

**2016年1月23日(土)**

16:00開演 指定席  
一般¥3,000(友の会価格¥2,700)  
学生¥1,000(限定数)

出演 椎名亮輔  
(講師:同志社女子大学教授)  
野原みどり(ピアノ)

曲目 ドビュッシー:  
ピアノのために、版画、  
喜びの島、映像第1集 ほか



ブリュートナー Blütner  
1913年、ライプツィヒ。  
85鍵(A A A~a 4)。  
長さ1,890mm、幅1,510mm。  
イギリス式アクション。  
総鉄骨、2重交差弦。  
協力: フォルテピアノ  
ヤマモトコレクション

## 伊東信宏企画・構成 レクチャーコンサート ピアノはいつピアノになったか?補遺 「ドビュッシーとピアノの謎」

以前3年かけて行った「ピアノはいつピアノになったか?」というレクチャーコンサートのシリーズの補遺として、今回はドビュッシーを取り上げます。ドビュッシーは、もちろんピアノ音楽に新しい局面を開拓した作曲家で、フランスのピアノももちろん愛用していたようですが、意外なのはドイツのブリュートナーという楽器と縁が深かった、というところです。共鳴弦を備え、強く豊かな響きを持つこの楽器でドビュッシーの音楽が構想されたとすると、彼の作品に対する見方も異なってくるように思われます。フランスやスペインの音楽に造詣の深い椎名亮輔さんのお話と、そしてフランス音楽の解釈に新しい風を吹き込む野原みどりさんの演奏でお楽しみください。

(伊東信宏=大阪大学教授、  
あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドバイザー)



なぜドビュッシーの作品は劇的に変わったのか?そのとき、彼に何が起こったのか?「印象主義」とピアノをめぐる、二重三重にねじれた関係とは?ドビュッシーのピアノ作品のスタイルの変化の謎を、証拠物件、状況証拠、証人たちを手がかりに、解きほぐして行こうという試み。最重要証拠物件が、アリコートという特殊な装置の付いたブリュートナーピアノであり、今回はその実物の演奏によって、耳による確認作業が実地に行われる。

○講師企画意図 事件:1904年、ドビュッシーのピアノ曲のスタイルが劇的に変化する。  
証拠物件1:《ピアノのために》(1902)、《版画》(1904)、《喜びの島》(1905)、《映像第1集》(1905)。  
証拠物件2:1904年購入とされるアリコート付きのブリュートナーピアノ。  
状況証拠:1903年にエンマ・バルダックと出会い、1904年夏に二人でジャージー島に逃避行  
(ここでブリュートナーを購入?)。ドビュッシー夫人リリーの自殺未遂事件。  
証人1:テスト氏(ドビュッシーの分身)。 証人2:マルグリット・ロン。 証人3:リカルド・ビニエス。  
\*今後の探索の展開によって、「証拠物件1」の選曲が変化する可能性も残されている。

### 椎名亮輔

(しいな・りょうすけ/講師:同志社女子大学教授)

1960年東京生まれ。東京大学大学院総合文化研究科比較文学比較文化博士課程単位取得満期退学。パリ第8大学音楽学部博士準備課程を経て、ニース大学文学部哲学科博士課程修了。哲学博士取得。東京大学助手、パリ第3大学講師、リール第3大学講師をへて、現在は同志社女子大学音楽学科教授。著書に『音楽的時間の変容』(現代思潮新社)、『狂気の西洋音楽史—シュレーバー症例から聞こえてくるもの』(岩波書店)、『デオダ・ド・セグラック—南仏の風、郷愁の音画』(アルテス・パブリッシング)、第21回吉田秀和賞受賞)。主要訳書に、マイケル・ナイマン『実験音楽』(水声社)、ドメル=ディエニー『演奏家のための和声分析と演奏解釈』(シンフォニア)、ジャクリーヌ・コー『リュック・フェラーリとほとんど何もない』(現代思潮新社)などがある。

### 野原みどり

(のはら・みどり/ピアノ)

東京芸術大学在学中、第56回日本音楽コンクール第1位受賞。首席で卒業後、パリ・エコール・ノルマル音楽院に留学。ブゾーニ国際ピアノコンクール第3位入賞(1位なし)、ブダペスト・リスト国際ピアノコンクール第2位入賞、第23回ロン=ティボー国際ピアノコンクール第1位に受賞。J・フルネ、L・マゼール、M・プラッソン、小澤征爾といった内外の指揮者、フィルハーモニア管、ドレスデン・フィルなどのオーケストラと多数共演。日本全国でのソロリサイタルに加え、ベルリン・フィル・ヴィルトゥオーゾ、アンサンブル・ウイーン=ベルリンやヴィオラのG・コセ、W・クリスト、サクソフォンのC・ドゥラングルとの共演など、室内楽やデュオでも活躍している。CDは「ラヴェル:ピアノ作品全集I・II」「月光」などフォンテック、アウローラ・クラシカルなどから7枚をリリースしている。京都市立芸術大学准教授、名古屋音楽大学客員教授。



■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ75

主催 エスカルゴなギター教室

2016年2月6日(土)

19:00開演 自由席

一般前売¥2,500(友の会価格¥2,250)

一般当日¥3,000(友の会価格¥2,700)

学生前売・当日¥1,000

※学生券は高校生以下対象。

※友の会割引枚数は無制限。

## 11弦ギター又は19世紀ギターデュオによる 「ギターの非日常」

出演 金谷幸三(11弦ギター、19世紀ギター)、稻川雅之(ギター、19世紀ギター)

曲目 ラモー:3つの鍵盤作品 ジョン・アダムス:チャイナゲーツ

ジョン・ケージ:風景の中で サティ:ジムノペディ、グノシェンヌ

トリスタン・ミュライユ:ヴァンピール ジャック・ボディ:アフリカンストリングス

J-S・バッハ:ゴルトベルク変奏曲 BWV988 ほか

歴史を持ちながらも時代や目的に応じて形を変化させ進化してきたギター。それら各種ギターをあえて目的外、時代を交錯させた状況で用いることで、一般的なギターの世界觀とはすこし違った不思議な響きを創り出しています。ロマンチック・ギターと呼ばれる19世紀の楽器で過去や未来を再現するほか、11弦やスチール、さらにはエレキギターを用いてギター音楽を非・日常的に扱う意欲的な演奏会です。

DUO PAGODA (デュオ・パゴダ)

2014年に地方からの文化発信を目指し、奈良在住のギタリスト、金谷幸三と稻川雅之によって結成。高度な演奏技術、個性の違う音楽性を融合させた本格的クラシックギターデュオ。それぞれの得意分野であるバロック音楽と現代音楽を前面に押し出したプログラムで他のギターデュオにはない独自の演奏会を行っている。



金谷幸三(かなたに・こうぞう/11弦ギター、19世紀ギター)

1966年神戸生まれ。10歳よりクラシックギターを小林勝夫、岡本一郎両氏に師事。高校卒業後渡仏、パリ国立高等音楽院、パリ国際音楽大学ギター科に学ぶ。これまでに国内はもちろん、東京国際コンクール邦人最高位など国際コンクールにおいてもその実力が評価されている。柔らかなテクニックに支えられた流麗な音楽表現を武器にバロックから現代アバンギャルドまで幅広いレパートリーをこなす。通常のギターのほか特殊な11弦ギターを用い、さらに多彩な「響き」を開拓しそれを表現。本格派ギタリストとして関西を中心に精力的に演奏活動を行っている。全編11弦演奏によるCD「# Forlorn Hope」がレコード芸術誌・準特撰盤に選ばれるなど高い評価を得る一方、新しいスタイルとして駆け出でてストリート・ライブを行うといった既存のクラシック界の常識にとらわれない自由な行動によつても注目されている。最近では地域FMにてギターパン組のパーソナリティをつとめ、ギター音楽の啓発にも力を注ぐ。2014年よりデュオユニット「DUO PAGODA」を結成。各地で演奏会を行いギター二重奏の楽しさを発信している。エスカルゴなギター教室主宰。

稲川雅之(いながわ・まさゆき/ギター、19世紀ギター)

1980年奈良生まれ。14歳でエレキギターを始め高校卒業後ヤマハ音楽院大阪に入学。小川逸史、竹田一彦両氏に師事。同校を首席で卒業する。21歳よりクラシックギターを大森守雄氏に師事しクラシックギターに転向、後数年でコンクール入賞を重ねる。2008年よりスウェーデン、マルメ音楽院で日本人として初めて世界的ギタリスト、イヨラン・セルシェル、及びグンナル・スピュリート各氏に師事。同校在学中にヨーロッパ各地のギターフェスティバルに参加し多くの著名ギタリストのマスタークラスを受講する。スウェーデン各地やデンマーク、ハンガリーなどでコンサートを行う。2012年帰国後は関西を中心にソロはもちろん、他楽器とのアンサンブル共演など精力的に活動。また関西各地で後進の指導にも力を注いでいる。2014年より、ギタリスト金谷幸三氏とギターデュオユニット「DUO PAGODA」を結成、全国での公演を重ねている。日本ギター協会正会員。

## ホール主催・共催・協賛公演チケットのお申込み方法

8月10日(月)~8月13日(木)  
までチケットセンター休業

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

## ■ザ・フェニックスホール友の会優先予約

- ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
- 主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
- 友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時に電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

## ■E-PHX(イー・フェニックス)優先予約

- E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
- 事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話でのご登録はできません。

## ■一般発売

- 一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

<http://phoenixhall.jp/>

チケットセンターのページからお申込みください

## ■インターネット予約(主催公演のみ)

- ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
- チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
- ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもあります。どうぞ了承ください。
- 学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
- チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店による  
お申込み

・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物5階、エレベーターを降りて廊下右手です。



## チケットお申込み後のお受け渡し方法

下記①または②のどちらかとなります。

①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。

営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。

②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351

加入者名 ザ・フェニックスホール

## Pick Up ピックアップ

### あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。

当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

フェニックス・ファンタスティック・ピアニスト・シリーズ 友の会の方は、いずれも10%割引 一般の方は、2公演以上のお求めで10%割引

11/14(土)開催、フェニックスホール主催公演 セルゲイ・カスプロフ ピアノリサイタル(P1-2参照)と以下の3つの  
ピアノリサイタルの中から、2公演以上をセットで購入して頂きますと、合計価格から10%割引致します(一般券のみ)。

協賛  
公演

### イエルク・デームス ピアノリサイタル

主催 プロ アルテ ムジケ



発売中

2015年10月27日(火) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥5,000(友の会価格¥4,500) 学生前売・当日¥3,000

出演 曲目 イエルク・デームス(ピアノ)  
～至高のオール・ワイン・プログラム～  
ハイドン:アンダンテと変奏曲 へ短調  
モーツアルト:ピアノソナタ 第11番 イ長調 K331「トルコ行進曲付き」  
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第31番 変イ長調 作品110  
ブルームス:6つの小品 作品118  
シューベルト:4つの即興曲 作品90 D899

～クラシック黄金時代の薫り高き伝統を継承するワイン・マン派最後の大巨匠～1956年ブゾーニ国際コンクールで第1位を獲得し、国際的名声を不動のものにしたイエルク・デームスは、バドゥラ=スコダ、フリードリヒ・グレダと共に「ワイン三羽鳥」と称される。オーストリア政府より第1級芸術文化名誉十字勲章、フランス政府よりレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを授与される。世界を代表するピアニストとして今もなお全世界で活躍し続けている。

協賛  
公演

### ペーター・ヤブロンスキーピアノリサイタル

主催 プロ アルテ ムジケ



発売中

2015年11月17日(火) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥5,000(友の会価格¥4,500) 学生前売・当日¥3,000

出演 曲目 ペーター・ヤブロンスキーピアノ  
ショパン:ポロネーズ 第1番 嬰ハ短調 作品26-1  
マズルカ 第14番 ト短調 作品24-1  
前奏曲 第15番 変ニ長調「雨だれ」作品28-15  
ピアノソナタ 第2番 変ロ短調「葬送」作品35  
ドビュッシー:映像 第1集、喜びの島  
コープランド(バーンスタイン編):エル・サロン・メヒコ

ピアニストでありながら、3歳でドラムを始め、6歳でスウェーデンの“ベスト・ジャズ・ドラー”に選ばれた自身の経験に裏付けられる「驚異的なリズム感」では右に出るものはいない。ピアノを始めてからは、羽冠9歳でピアノリサイタルを開催、12歳でオーケストラと共に演奏する等、神童として世界から注目を集め。その後も16歳で指揮や作曲の才能を開花させる。音楽家として数々の名声を欲しいままにしてきた“異色の天才ピアニスト”が贈る衝撃の一夜。

協賛  
公演

### 藤井快哉 ピアノリサイタル

主催 藤井快哉ピアノリサイタル実行委員会



発売中

2015年12月11日(金) 19:00開演 自由席 一般前売・当日¥3,000(友の会価格¥2,700) 学生前売・当日¥2,000

出演 曲目 藤井快哉(ピアノ)  
オール・ショパン・プログラム ※曲目は変更になる  
序奏とロンド 変ホ長調 作品16 場合がございます  
マズルカ 第13番 作品17-4  
エチュード 第5番「黒鍵」変ト長調 作品10-5  
ワルツ 第3番 イ短調 作品34-2  
ポロネーズ 第6番「英雄」変イ長調 作品53  
ピアノソナタ 第3番 口短調 作品58

関西を中心に活躍を続けるピアニスト、藤井快哉がオール・ショパン・プログラムによるリサイタルを開催する。一昨年のシューベルト&アメリカ・プログラム、昨年のフランス・プログラムと、その音楽性にじっくりと磨きを掛けてきた藤井による満を持してのショパンは、魅力がぎっしりと凝縮された濃厚なもの。一夜でショパンを楽しむことができる絶好の内容。今回はヤブロンスキーピアノリサイタルとの組み合わせで割引が利用出来るのも嬉しい。

協賛  
公演

### スペニッシュ・プラス —Spanish Brass Luur Metalls—

主催 プロ アルテ ムジケ



発売中

2015年8月4日(火) 19:00開演 自由席 一般前売・当日¥5,000(友の会価格¥4,500) 学生前売・当日¥2,500

出演 曲目 カルロス・ベネト・グラウ、ファンホ・セルナ=サルバドール(以上トランペット)、マヌエル・ペレス=オルテガ(ホルン)、  
インダレシオ・ボネット=マンリーケ(トロンボーン)、  
セルヒオ・フィンカ=キロス(チューバ)  
J-S・バッハ:トッカータとフーガ 二短調 BWV565  
ヴェルディ:運命の力 序曲  
ブレトン:「パロマの前夜祭」よりセギディーリヤス  
グラナドス:「スペイン舞曲集」より第5番 アンダルーサ  
ヒメネス:「リース・アロンソの結婚」より間奏曲  
ロータ:フェリーニ映画音楽集 ほか

1989年結成。第6回ナルボンヌ国際金管五重奏コンクール優勝を皮切りに国際舞台での活躍をスタート。舌を巻く超絶テクニックと、抱腹絶倒のコミカルなステージで聴衆の心を鷲掴みにする彼らのステージは、世界各地の主要な音楽祭などでも絶賛される。CD・DVDリリースは18タイトルを越えており、そのどれもが高い評価を得ている。芸術的才能に恵まれたメンバーそれぞれがソリストとしての音色を生かしつつ、最高の質とエンターテインメントでお贈りする熱狂の一夜。

協賛  
公演

### 大阪アーティスト協会30周年記念

主催 大阪アーティスト協会

### 「サマーミュージックフェスティバル大阪2015」《夏祭なにわなくとも室内楽》

発売中

2015年8月8日(土)・9日(日) 17:00開演 自由席 一般前売・当日¥4,000(友の会価格¥3,600) 小中高生¥1,000 2公演セット券¥7,000 ※友の会割引は1会員2枚まで。

出演 曲目 綱干毅(構成・監修)、芦刈元子、三木康子、木下たまみ、小池泉、恒川裕子、笛村直子、山下憲治(以上ピアノ)、日比浩一、ギオルギ・バブアゼ、山之内悠子、田辺良子、釋伸司(以上ヴァイオリン)、侯野ゆみ、小間久子(以上ヴィオラ)、日野俊介、大町剛、三宅香織、山岸孝教(以上チェロ)、松本直美、野津臣貴博(以上フルート)、石井理子(ハープ)、サクソフォンカルテット、小林千晃(イングリッシュホルン)、エンキ(中国琵琶)  
ラロ:ピアノ三重奏曲 ドビュッシー:フルート、ヴィオラ、ハープのためのソナタ フランセ:イングリッシュホルンカルテット  
フンメル:フルートとピアノのためのソナタ ニ長調 作品50 プロコフィエフ:ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第2番 ほか

毎年恒例となりました綱干毅氏構成・監修の「夏祭なにわなくとも室内楽」、今年は大阪アーティスト協会30周年記念スペシャル「サマーミュージックフェスティバル大阪」の一環として8月8日・9日の2日にわたって開催致します。関西で活躍するアーティスト達が集い、多彩な室内楽をお届けします。

協賛  
公演

### 関西二期会サロンオペラ第11回公演「電話」「泥棒とオールドミス」

主催 公益社団法人関西二期会

2015年8月27日(木)・28日(金) 19:00開演 自由席 一般前売・当日¥3,000(友の会価格¥2,700)

出演 袖岡浩平(指揮)、高木愛(演出)、殿護弘美(ピアノ)、米田哲二(公演監督)

「電話」 8/27 8/28 「泥棒とオールドミス」 8/27 8/28  
ルーシー:西田真由子 大岡美佐 ミストッド: 雜賀美可 畠田弘美  
ベン: 黒田まさき 萬田一樹 ミス・ピンカートン: 芦原昌子 田村香緑子  
レティーシャ: 岩本実奈子 西田佳代  
ボブ: 黒田まさき 萬田一樹

曲目 メノッティ:歌劇「電話」「泥棒とオールドミス」

毎回ご好評を頂いております関西二期会サロンオペラ。気軽にプロの演奏を楽しんで頂くことをテーマに公演を重ねてきました。第11回公演はメノッティの喜劇オペラを2本立てでお送りします。近年のスマホ社会に通じる電話を中心とした愛とユーモアあふれる「電話」、勘違いが勘違いを呼びあつと驚く結果を迎えるドタバタ劇「泥棒とオールドミス」。両公演ともにお見逃しなく!!

協賛  
公演

## 上海クアルテットのベートーヴェン

2015年11月18日(水) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥5,000(友の会価格¥4,500)  
U25¥2,500(1990年以降生まれの方限定。公演当日、生年を証明できるものをお持ください。)主催 テレビマンユニオン  
協賛 東レ株式会社

出演 上海クアルテット/ホンガン・リ、  
イーウェン・ジャン(以上ヴァイオリン)、  
ウェイガン・リ(ヴィオラ)、ニコラス・ツヴァーラス(チェロ)  
曲目 オール・ベートーヴェン・プログラム  
弦楽四重奏曲 第3番 二長調 作品18-3  
弦楽四重奏曲 第11番 ヘ短調「セリオーソ」作品95  
弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 作品132

NYを拠点にいま最も多忙な弦楽四重奏団として世界中で活躍。  
東京クワルテットに継ぎ、アジア出身のスーパー・クアルテットとして不動の地位を確立している。2003年の結成20周年を機に、大阪をはじめ東京、NY等各地でベートーヴェン全曲演奏会を開催。近年では、北京、上海での全曲演奏会を成功に導く。昨シーズン結成30周年を迎え、ますます円熟味を増した彼らによる、大阪では実に10年ぶりの必聴のベートーヴェン。期待に胸が高鳴る。

7/30(木)  
発 売Osaka  
Guitar  
SummerOsaka Guitar Summer 2015 関連プロジェクト  
福田進一とフランシスコ・ベルニエールによる  
公開マスタークラスと受講生修了コンサートのご案内修了コンサート  
有料になりました受付開始  
7/24(金)  
10:00

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールは2010年8月、ギターを軸に据えた継続的な音楽プロジェクト「Osaka Guitar Summer(大阪ギターサマー)」福田進一と仲間たち」を創設しました。

このプロジェクトは、福田さんと世界トップクラスの演奏家によるコンサートを中心とし、これら演奏家が次代を担う若者を指導、同時にギター演奏や音楽づくりの楽しさ、深さを一般の方に触れて頂く「公開マスタークラス」(ソロ部門ほか)、指導を受けた若者が、みずみずしい演奏を披露する「修了コンサート」の3本柱からなります。聴講をご希望の方は、事前の申し込みをお願い申し上げます。

## &lt;公開マスタークラス&gt;

8月29日(土)午後 講師:福田進一 8月30日(日)午後 講師:フランシスコ・ベルニエール

入場料:無料(要・入場券。当ホールチケットセンターのみのお取り扱い) \*お一人2枚まで。

## &lt;修了コンサート&gt;

8月30日(日)夕 出演:公開マスタークラス受講生

入場料:500円(友の会割引なし。当ホールチケットセンターのみのお取り扱い)

※詳細についてはホールホームページ <http://phoenixhall.jp> をご確認下さい。

■会場 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

■お申込み方法

ザ・フェニックスホールチケットセンター:来店もしくはお電話

TEL 06-6363-7999 (平日の10時~17時)

FAX:専用の申込み用紙に必要事項をご記入のうえ送信ください。

FAX 06-6363-1124

申込み用紙はホールホームページ <http://phoenixhall.jp> よりご入手可能です。

ウェブ:下記のURLもしくはQRコードからアクセスください。

[https://f.msgs.jp/webapp/form/10897\\_ddq\\_52/index.do](https://f.msgs.jp/webapp/form/10897_ddq_52/index.do)

申し込みはこちら



■お問い合わせ

ザ・フェニックスホール「大阪ギターサマー事務局」TEL 06-6363-0211 (平日9時~18時)

## 11月27日(金)ティータイムに出演 カルミナ四重奏団 ワークショップ参加お申込みご案内

ティータイムコンサートシリーズ111 弦楽四重奏で聴くモーツアルト「レクイエム」—カルミナ四重奏団の公演につきまして、公演当日11月27日(金)午前11時より、ホールでワークショップ「弦楽四重奏の『意思決定』—中高年のための室内楽入門」を開催いたします。

弦楽四重奏団のメンバーは、演奏曲のさまざまな表現をどのように決めていくのか、そのプロセスの一端をお話と生演奏で、主に中高年の皆様にご紹介し、室内楽の楽しみを知って頂く試みです。

ワークショップへのご参加は有料で、別途お申込みが必要となります。ただし、演奏会のチケットをご購入いただきましたお客様は、無料でご参加いただけます。右記のとおり、申し込み受付をいたしますので、ふるってご参加下さいますようお願い申し上げます。

## 弦楽四重奏の「意思決定」—中高年のための室内楽入門 ワークショップ

11月27日(金) 開演11:00 自由席 会場:あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

★11月27日14時 弦楽四重奏で聴くモーツアルト「レクイエム」—カルミナ四重奏団公演  
既にチケットをお持ちの方

■定員 先着200名様 (定員になり次第締め切ります。)

■入場料 無料

■お申込み方法 来店・電話・FAX・ウェブで受付をいたします。

・来店:ザ・フェニックスホールチケットセンター(平日10時~17時)

・電話:ザ・フェニックスホール 06-6363-7600

・FAX:専用の申込み用紙に必要事項をご記入のうえ、06-6363-1124へ送信下さい。

(申込み用紙は、ホールホームページ <http://phoenixhall.jp> より入手可能です。)

・ウェブ:下記のURLもしくはQRコードからアクセスください。

[https://f.msgs.jp/webapp/form/10897\\_ddq\\_59/index.do](https://f.msgs.jp/webapp/form/10897_ddq_59/index.do)

無料ワークショップのお申込みは、ご購入された方のお名前で予約をお願い致します。また、演奏会チケットの購入枚数を上限と致します。

申し込みはこちら



■受付期間 8月3日(月)~10月30日(金) (平日10時~17時)

★ワークショップのみお求めの方

■定員 先着100名様 (定員になり次第締め切ります。)

■入場料 1,000円(友の会割引なし)

■お申込み方法 ザ・フェニックスホールチケットセンター TEL 06-6363-7999

■発売日 9月29日(火)

■お問い合わせ 自主企画公演グループ TEL 06-6363-0211



# あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール開設をリード

# 岡崎 真雄館長



あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールは本年度、開館20年を迎えた。関西有数のオフィス街であり、商業ゾーンであり、また歓楽街でもある梅田に立地。大阪はもとより兵庫、京都、奈良や滋賀、和歌山、関西外からも交通アクセスに恵まれ、オフィスビルにビルトインされた都市型施設だ。客席数は300余と小ぶりながら、優れた音響はもちろん、ヨーロッパのサロンを思わせる高級感、舞台上のアーティストと聴衆とが一体になれる親密感、さらには街の景色を館内に取り込むユニークな構造などが人気で年間、およそ200もの事業が開催され、多くの人々でにぎわっている。節目に臨み、ホールを取り巻く様々な人々の思いをインタビューで紹介し、今後の事業の飛躍を期す。来年3月号までの5回シリーズ。トップバッターは、ホール開設を指揮した岡崎真雄・現館長(あいおいニッセイ同和損害保険顧問)。オープン時の思いを聴いた。



フェニックスタワーの御堂筋側外壁に残されたフェニックス(不死鳥)のレリーフ。古代エジプト神話の靈鳥で、数百年に一度、自ら火中に飛び込み、身を焼いて蘇るとされる。災害からの再生・復興の象徴と位置付けられている。

## 損保のオフィスビル内に、コンサートホールを造る。この発想の源から聴かせてください。

—オープンした1995年は、当時の同和火災海上保険の創業50年にあたります。記念事業として大阪本社の社屋を建て替えることになりました。ビルはご存じのとおり、御堂筋に面しています。そこで建築行政を司る大阪市が少し前に条例を定めており、新規の社屋内に、公共に資する施設を設ける場合は、建物の容積率の制限緩和を受けることが出来るようになっていました。これにより、通常より高い建物を造ることができるので。経営上、メリットが大きかったのはもちろんですが、建て替えの検討を進めていた90年代前半は、企業が芸術文化を支援する「メセナ」活動が全国的に盛ん。長年、大阪・関西でお世話になってきた企業として、地域の方に喜んでいただけるような事業を考え、ホールを造ることになったのです。

## メセナの施設として、たとえば美術館やギャラリーではなく、他でもないホールを選んだのはなぜですか。

—実は僕は、最初からホールしか考えていませんでした。幼い頃、神戸で友人ともどもピアノを習っていました。家には父が集めたSPレコードがたくさんあって、ベートーヴェンのシンフォニーやヨハン・シュトラウスのワルツ、「カルメン」をはじめとするオペラのアリアをよく聴いていました。高校、大学と

進むうち、レッスンを受けるのはやめてしまったのです。でも留学から帰り、働き始めてからはピアノの江戸京子さんやヴァイオリニンの前橋汀子さんといった優れた音楽家と交流したり、コンサートに誘われたりで、ずっと音楽は身近でした。特に熱心なファンとは言えなかったかもしれませんのが、日常生活の中で、音楽の素晴らしさは身に染みました。おしゃれな御堂筋に造るオフィスビルなら、ホールしかない、と思ったんですね。敷地面積の事情もあり、客席数は300程度の小ぢんまりした施設になりました。いきおい、演奏されるのも少人数の室内楽が中心となつた訳ですが、大ホールやオペラ劇場とは異なる、「親密な空間」を市民に提供するというのも、人と人を結び付けられるという点でメセナらしくて良いんじゃないかな、と思いました。

**おかげさまでまさお** 1935年神戸市生まれ。58年慶應義塾大学経済学部を卒業し同年に米トリニティ・カレッジに留学。60年同和火災海上保険取締役。85年同社長・会長。2001年ニッセイ同和損害保険会長、2010年あいおいニッセイ同和損害保険顧問、2014年同社顧問。日本損害保険協会副会長、日本原子力保険ブルー会長、損害保険俱楽部理事長、経団連理事、関経連常任理事などを務めた。公益財団法人日本民芸館理事長、一般社団法人日本工業俱楽部理事などを務めている。02年トリニティ・カレッジ人文学名誉博士号、04年大阪市民表彰、11年旭日中綬章。ザ・フェニックスホールでは1995年の開設当初から館長を務めている。

# 「都心の親密空間」を目指し

ビル自体、多くの人々が集う場ですし、その設計と一体でホール構想を膨らませたということですね。

—今の社屋の前は、昭和初期のガッシリした建物。正面玄関の入り口に、フェニックス（伝説上の不死鳥）と社章をかたどったレリーフが飾ってありました。災害や戦争などから人々が復興・再生するシンボルで、ビルもホールも、そのイメージを生か



フランスの画家ポール・ギャン(1926~2007)が描いた「白いヴァイオリン」

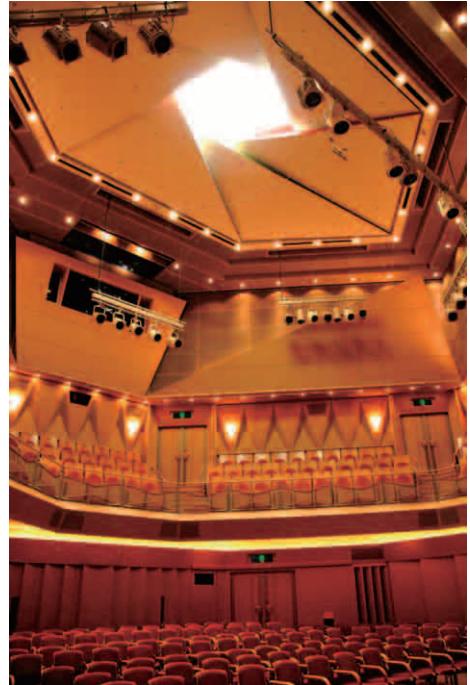
したいと考えました。建築設計事務所(日建設計)の方とは随分、議論を重ねました。音楽ホールである以上、音響が良いのは必須の条件ですが、加えて僕がこだわったのは、コンサートの聴衆の皆さん、あるいはホールを借りて使って下さる方々双方に使い勝手が良いことでした。ホール一階

部分の床は、いくつものブロックに分かれています、それぞれが昇降可能。これを上げ下げすることで、様々な場所に舞台を設けることが出来る仕組みです。通常の舞台位置は、梅田新道の交差点寄り(フロア北西)の壁際ですが、フロアの中央、あるいはフロア南東にも舞台を設けることが出来ます。また、施設全体としての雰囲気が明るくて、ゆったり演奏を聴いていただけるように、担当の建築家に何度も注文を付けました。設計は大変だったと思いますが、よく勉強し、要望に応えてくれました。彼らの努力には今でもとても感謝をしています。

ホール内のあちこちに、様々な美術作品が多数、飾ってあります、「サロン」の雰囲気がありますね。

—画廊の方とよく相談してフランスの売れっ子画家ポール・ギャンを選択しました。大阪に招いてホールの空間を見てもらい、そこに合わせて描いてもらつたんです。お客様が、ビル一階のアトリウムからエスカレーターで2階に上がつていただく。するとまず、「白いヴァイオリン」という大作が掛かって目に飛び込んでいます。コンサートを中心楽しんでいただきたために、視覚的な「おもてなし」を意識したんです。階段や窓際のモダンな彫刻は、アメリカのリチャード・マクドナルドの作。84年のロサンゼルス五輪関連の創作で評価された名匠。展示されている作品は、ロサンゼルス近郊の、多くのアーティストが集つている町ラグナビーチで僕が直接、買い付けました。ホールの内装や客席の椅子の布地の色もリラックスしていただけるよう、内外の素材をとことん選び抜きました。

ザ・フェニックスホール内観。天井高は13メートル。室内楽に適した響きを醸し出している。



**開館は95年5月13日。ドイツのゲヴァントハウスやアメリカのガルネリといった世界的な弦楽四重奏団、ベルリンフィルの管楽アンサンブル、林康子さん(ソプラノ)や伊原直子さん(アルト)、園田高弘さん(ピアノ)など内外の名アンサンブルや名手が次々に来演しました。演奏家のホール評価はいかがでしたか。**

—幸い、「イメージ通りの音や声が、きちんと舞台上に返ってきて、とても弾き心地が良い。歌い心地が良い」と皆さん、口を揃えて言って下さいました。演奏家も喜んでくれる、素晴らしいホールになれたと安心しましたね。僕たちのホールにはご存じの通り、舞台後ろの壁面が上がり、お客様がガラス越し

に街の景色を見つめながら演奏を聴ける特殊な構造があります。開館初日、お客様の前で僕がそのスイッチを押し、お披露目をしたのです。客席のどよめきを聞きながら、「これからが大変だな」と思ったことを覚えています。施設は運営が肝心です。これからも、地域社会に貢献できる施設として、多くのお客様に来ていただき、喜んでいただけるようなホールづくりに努めていきたいですし、皆様にもどうか引き続き、ご支援をお願い致します。

(取材・構成:あいおいニッセイ同和損保  
ザ・フェニックスホール)

Greeting

## 多彩な音楽文化を発信 ホール名誉音楽監督 江戸 京子

ザ・フェニックスホールの開設は1995年5月。阪神淡路大震災の直後にあたり、関西だけでなく日本全体が復興に向かって、さまざまな営みを展開している最中のオープンでした。あの時期、「不死鳥」を意味する「フェニックス」を名に冠したコンサートホールが生まれたのは不思議な気がいたします。

以来20年、音楽監督として私はこのホールの企画に携わってきました。ヴィオラ奏者の今井信子さん、音楽学者の伊東信宏さんのお二方ともども、大阪・関西にとどまらず、広く日本、そして世界に優れた音楽を発信するホールにふさわしい公演を目指して参りました。

振り返れば、実に多くのコンサートを行っております。とりわけ室内楽に適した構造を持っていますが、音楽監督としてはそれを主軸としながらも、その一方で文化多元主義的な考え方から多様な音楽の発信に取り組んできました。アジア、アフリカ、などの民族音楽をはじめ、ジャズや邦楽あるいは現代音楽などのジャンルを取り入れて紹介し、音楽が内包するさまざまな世界を楽しんでいただくように努めて参りました。

客席数300余。舞台と客席との距離が近く、演奏者の息づかいが聴衆一人ひとりに確実に伝わる、実に贅沢な空間。開設から20年を経た今も、この特性は日本はもちろん、世界的にも稀といつて過言ではありません。作品に命を吹き込む演奏家と、それに共感する聴き手との、言葉を超えたコミュニケーションが交わされ、思い掛けない名演を何度も楽しむことが出来ました。今後も皆様が音楽とこの素晴らしいホールを楽しんで下さることを、願ってやみません。



えど・きょうこ

1937年東京生まれ。55年桐朋学園ピアノ科卒業後、フランス政府より後援学生として渡仏、パリ国立音楽院入学。60年同音楽院卒業後、渡米し、シカゴ交響楽団と共に演奏活動を行う。1985年から2009年まで毎年「東京の夏」音楽祭を企画、構成。同年アリオン音楽財団を設立し理事長に就任。2006年には、第21回「東京の夏」音楽祭2005「宇宙・音楽・心」の成果に対し、同音楽祭の芸術監督としての業績が高く評価され、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。ホール設立以来、音楽監督として自主企画公演のサポート、監修を担当。

# 「交流」促す サロン目指せ

佐藤 千晴

阪神淡路大震災の年に生まれた「不死鳥」の名を持つ音楽空間、ザ・フェニックスホールが20周年を迎える。

95年生まれば人間でいえば「さとり世代」。バブル崩壊後に育ち、堅実で高望みをしない気質といわれる。でもフェニックスホールには堅実でもいい、理想を高く夢は大きく歩み続けてほしい。

高みと広がり、目指すは二つの方向だと思う。世界の弦楽四重奏団が「日本に行つたらぜひ、フェニックスで演奏を」と切望する場であると同時に、従来の音楽ホールの枠を超えて人々が集まり交流できる場。この音楽空間を愛するアーティストも聴衆も力を合わせ、一緒に歩む仲間でありたい。

大阪のクラシック音楽ホールはすべて民間企業の社会貢献で生まれた。1958年にフェスティバルホール(朝日新聞社、2700席)、1982年にザ・シンフォニーホール(朝日放送、1700席)、1990年にいづみホール(住友生命、800席)、1993年にイシハラホール(石原産業、250席)、そして1995年にザ・フェニックスホール(同和火災海上保険=現・あいおいニッセイ同和損害保険、300席)。

京都、兵庫、滋賀には県立、市立のホール・劇場があるが、大阪市内にはない。音楽も演劇も舞台芸術のインフラストラクチャーは民間が担っている。江戸時代から道頓堀、淀屋橋、中之島の図書館や公会堂などまちのインフラづくりを民間が担ってきた歴史ゆえだろうか。

まず大ホールがつくられ、90年代以降に中ホール、小ホールが続いた。「大きいことはいいことだ」とばかりに大ホールで何でも演奏する時代から、音楽に似合う空間で演奏する時代へと人々の感覚が成熟した証だろう。

しかし1990年代以降、民間企業の社会貢献はバブル経済崩壊後の荒波にさらされた。大阪でもイシハラホールが親会社の経営不振で2013年に閉館し、ザ・シンフォニーホールは滋慶学園グループに売却されて2014年から運営を交代した。ザ・フェニックスホールは親会社が21世紀に入って合併を重ね、2010年に現体制となったが、創立時の志を保って存続している。

300席のザ・フェニックスホールは室内楽ファンにとって宝石のような場だ。室内楽は音楽家と距離が近い空間で聴くと楽しさが倍増する。ボロディン弦楽四重奏団の幽界に誘うかのようなベートーヴェン、ヴィオラの今井信子さん、ピアノの伊藤恵さん、朗読の栗塚旭さんのトリオで聴いたシューベルト「冬の旅」の奥深さ、最近では裸足で舞台に登場したパトリツィア・コバチンスカヤの生命感あふれるヴァイオリン……思い出の公演はどれもアーティストの息づかいも記憶に残る。

楽屋と客席の出入り口が何の隔もなくフラットに並んでいる構造だから、終演直後に楽屋前のロビーでアーティストと聴衆が談笑する光景もよく見る。客席と楽屋の間に厳重な扉がある他のホールではこうはいかない。



東京生まれ、千葉育ち。早稲田大学第一文学部社会学専修卒。1985年から2013年まで朝日新聞記者。警察回りも高校野球も選挙も取材したが、主な担当は文化、中でもクラシック音楽。ザ・フェニックスホールとはオープニングからのお付き合い。退社後の2013年6月、大阪府・大阪市が共同設置した大阪アーツカウンシルの統括責任者に就任。音楽以外の演劇、美術、古典芸能なども広くフィールドワークし、大阪からの文化発信を支えるプランを考える日々を送っている。

小さなホールの強みは、人々が親密に交流するサロンになりうことだ。そもそもホール情報誌の名前が「Salon」。ワークショップ、一般から公演企画を公募する「エヴォリューションシリーズ」など聴かせるだけにとどまらないプロジェクトは現在もあるが、「交流」という方向性を広げ、深められたら素晴らしい。

ザ・フェニックスホールの楽しみの一つがアンコール時、遮光壁が静かに上がりガラススクリーン越しに大阪の街が見える瞬間だ。毎回のお約束でもわくわくするのだから、初めての人にはどれだけインパクトがあるだろう。この光景を一部のクラシックファンしか知らないのは惜しい。

この「空中劇場」で夜景を見ながらジャズやボサノバのライブがもっとあつたらしいなと思う。アンプラグドの弾き語り、たとえば長谷川きよしさんも聴いてみたい。「クラシック専用」の枠を外して「アコースティックな音楽空間」と位置づければ、ホールの可能性は広がるのではないか。

ホールと大阪のまちにもっと交わってほしいとも感じる。ホールを出ればすぐに大阪有数の飲食街・北新地やお初天神界隈。ギャラリーや古美術店が並ぶアートストリート、老松通りにも近い。南東に10分も歩けば中之島公園、レトロな府立中之島図書館や市中央公会堂、世界有数の陶磁器コレクションを持つ大阪市立東洋陶磁美術館がある。西に20分で国立国際美術館。大阪アート散歩に絶好のエリアなのだ。

20周年記念に、ホール友の会会員を対象に音楽を聴いて街のアートポイントを歩いて最後は乾杯して語り合う集いなんてどうだろう? ふだんは会員同士の交流があまりないので、こういうイベントが一度あるとホールで再会した時に言葉を交わすきっかけになる。ホール友達が増えればコンサート通いの楽しみが増える。スタッフの手が回らなければ、ホールのファンからボランティアを募るのも一案。みんなでイベントをつくるという交流にもなる。

文化による社会貢献とは、かつては質の高い作品や公演の創造を支援し、鑑賞の機会を提供することが主流だった。21世紀のいま、都市の魅力を高めること、コミュニティー形成の核になることも重要な役割としてクローズアップされている。

ザ・フェニックスホールはこの三つの機能を果たす潜在力を秘めている。「小さくてもきらりと光るホール」として大阪の財産であり続けることを祈る。

(さとう・ちはる=大阪アーツカウンシル統括責任者・元朝日新聞記者)

## Gallery

### 「アートインザホール」の代表格

あいおいニッセイ同和損害保険ザ・フェニックスホールには、絵画・彫刻をはじめとする多くの美術作品がロビー・階段に飾られていることは、皆様ご存知のことだと思います。今回、本号表紙と“Gallery”で取り上げる作品は、ポール・ギアマン作「野外のヴァイオリン」です。この作品は、**<2階ホワイエのドリンクコーナー奥>**という少し奥まったスペースに展示されており、ティータイムコンサートなどの折、ご覧いただいている方も多いことでしょう。壁一面に及ぶ、当ホールの絵画の中でも一番大きな作品で、フェニックススターが描き込まれている大変貴重な作品です。ぜひ、一度足をお運びくださいませ。



### 野外のヴァイオリスト

この作品は、1995年ザ・フェニックスホール開館にともない、ギアマンが特別に制作した縦2メートル横3メートルの、ザ・フェニックスホールで一番大きな作品です。ピンクとブルーの色彩で描かれた詩的情緒溢れる幻想的な光景は、2階ホワイエのスペースを幸福感で包み込みます。また、寒暖色の色彩対比は鮮やかさを強調させ、見るものを深く魅了します。遠景にフェニックスホールを望み、女性が奏でるヴァイオリンの調べに合わせてダンスを踊る少女たち、沐浴をする人々、たわむれる馬、ギアマンが愛したモチーフ全てが描かれています。彼はいつも、人生の優美な面、魅力あふれる面、幸福な面を心に思い描いて制作しました。ギアマンが描く絵画そのものが「幸福」であり「喜び」なのです。

室内楽。元々は、貴族やブルジョアの邸の客間(サロン)で奏でられた、小編成のアンサンブル。オーケストラやオペラに匹敵する、膨大な作品群が存在する。これらをじっくり味わってもらうにはザ・フェニックスホールと同様の、小規模な空間が演奏に適している。国内に散在する、客席数200から400くらいの室内楽ホール7館を順次連載で紹介する。初回はお隣・京都の楽舎から。

①設置 ②所在地 ③電話 ④座席数 ⑤ホームページURL  
ホールは50音順に配置。

## TOKYO

### 王子ホール

- ①王子製紙株式会社(現・王子ホールディングス株式会社)
- ②東京都中央区銀座4-7-5 ③03-3564-0200
- ④315席 ⑤<http://www.ojihall.jp/>



### トップパンホール

- ①凸版印刷株式会社
- ②東京都文京区水道1-3-3 ③03-5840-2200
- ④408席 ⑤<http://www.toppanhall.com/>



### HAKUJU HALL

- ①株式会社白寿生科学研究所
- ②東京都渋谷区富ヶ谷1-37-5 ③03-5478-8867
- ④300席 ⑤<http://www.hakujuhall.jp/>



©Albert Abut 写真 Nacasa & Partners Inc.

## NAGOYA

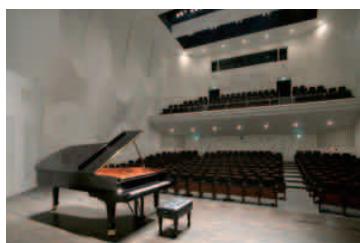
### ザコニアートホール 名古屋・伏見・電気文化会館

- ①中部電力株式会社
- ②名古屋市中区栄2-2-5 B2 ③052-204-1133
- ④395席 ⑤<http://www.chudenfudosan.co.jp/bunka/denbun>



### 宗次ホール Munetsugu Hall

- ①宗次徳二 氏
- ②名古屋市中区栄4-5-14 ③052-265-1715
- ④310席 ⑤<http://www.munetsuguhall.com/>



## SAPPORO

### -j・きとうホール

- ①六花亭製菓株式会社
- ②札幌市中央区北4条西6丁目3-3 ③0120-12-6666
- ④221席 ⑤<http://www.rokkatei.co.jp/fukinoto/>



## Barocksaal

京都青山音楽記念館  
Aoyama Music Memorial Hall

### 京都・青山音楽記念館 バロックザール

こんにちは!室内楽ホール

①京都編

### 若手支援 古都拠点の登龍門 田中美鈴理事長に聴く

京都の名刹・嵐山。松尾大社や西芳寺の近くに青山音楽記念館がある。客席200の室内楽専用ホール。天上高11メートル、豊かな空間が醸す、まろやかな響き。木の温もりを宿す内装。訪れる人をゆったり寛がせる。舞台と客席の親密感はやはり、小ぢんまりした空間ならではの特性だ。

京セラ創業者の一人で、社長・会長を務めた青山政次氏(故人)が1987年、私財を投じ建設した。その名を冠する「青山財団」が運営にあたる。

過去にはイ・ムジチ合奏団やウィーン少年合唱団、ピアノの巨匠アレクシス・ワイセンベルクら高名なアーティストが財団主催の舞台に立ってきた。本年度もそんな主催公演が6回。近年もチケット売り出し後間もなく、売り切れが珍しくない。

京都の本格的な音楽ホールは概ね市や府によって設置され、運営にも行政が関わるケースが大半。そんな中でここは、民間ならではの特色ある事業で内外の音楽シーンに貢献する。実力ある若手音楽家の活動サポートだ。このホールで自主公演を開く若者に使用料を補助する「助成公演制度」、優れた公演を表彰する「青山音楽賞」、音楽学生に奨学金を出す「奨学金事業」。背中を押され、活躍中の才能は枚挙にいとがない。音楽教育機関などを助成する「学校等支援事業」もある。

「素質に恵まれ、本気でクラシック音楽を取り組む青年を手厚く応援する。政次氏に提案したことがありました」。姪にあたる現理事長の田中美鈴氏はピアニスト。「ホリオン」の名で知られる京都市立京都堀川音楽高校で長く教鞭を執り、校長も務めた。財団でも草創期から理事を務め、2012年に理事長に。教育者ならではの情熱が、館のカラーをはぐくんだ。

財団は、かつては京都府教育委の管轄。勢い支援事業も地元重点だったが11年、内閣府管理の公益法人に。支援対象も全国に拡大、より多くの優れた若手が舞台に立つ「登龍門」となっている。



- ①公益財団法人 青山財団
- ②京都市西京区松尾大利町9-1 ③075-393-0011
- ④200席 ⑤<http://www.barocksaal.com/>



たなか・みすず

京都市出身。京都市立堀川高校音楽課程を経て、京都市立音楽短期大学(現 京都市立芸術大学音楽学部)器楽科ピアノ専攻卒業。同短期大学や同高校の非常勤講師、同校教諭を経て、京都市立音楽高等学校教頭・同校長を歴任。その後、同市教育委員会主事、音楽高等学校移転整備事業計画の審査委員などを務めた。青山財団では長く理事を務め、2012年9月、理事長に就任。2010年 藤堂音楽褒章受章。

# カンタービレ～歌うように～

—幸田浩子



Keizo Matsui

数年前、ドラマや映画にもなり大ヒットした『のだめカンタービレ』という漫画のタイトルにある“カンタービレ”という言葉。初めてその言葉に出会ったのは、小学校低学年の頃です。ピアノの楽譜の上端にちょこっと書いてありました。「カンタービレ～歌うように～…」ということは、なんとなく優しい音にするのかな。」くらいに思って弾いていたと思います。そして、“アンダンテ～歩く速度で～”や“クレッシュンド～だんだん大きくな～”などと同様、その音楽用語の原語がイタリア語だと知るのは高校生の時で、さらにそれらの言葉の意味が活きた言葉としてずっと体に入ってきたのは、もっとずいぶん後、イタリアで生活するようになってからのことでした。

イタリアの方々は歌うことが大好きで、八百屋さんやお肉屋さんのおじさんが、パヴァロッティのようなお腹!(笑)と美声で「シニヨリーナ～♪」と声をかけ、ついでに《オ ソーレ ミーオ》のワンフレーズを歌いながら呼び込みをしていたり、街の大広場には、いつも誰かが奏で、歌って、音楽が溢れています。ある時は、オペラ『リゴレット』観劇後の長距離バスの運転手さんが、興奮冷めやらぬ様子で公爵のアリア《女心の歌》を熱唱。乗客も声を合わせながら帰路につくということもありました。あの土地での経験によって、歌が、音楽が、私にとってより一層身近に、親密になりました。

ところで、インタビューで、「あなたの健康法は、

何ですか?」と質問されることがよくあります。その際は、いつも迷うことなく「私の健康法は“歌うこと”です。」とお答えしています。体幹を意識し、真っ直ぐ大地を踏みしめて立つ。体の余分な力を抜いて、深く深く息を吸う。一旦息をキープしてから、ゆっくりと吐息に声を乗せる。これだけで、様々な健康法のベースと共に通しますよね。そして音楽が持っている優しいエネルギーを体内に取り込んで、歌と共に、自身と会場、そしてお客様と一緒に共鳴したとき、そこからまた新たなエネルギーが湧いてくるを感じます。加えて、暗譜の作業といつも直面していますので、脳トレになりますし!?, どんな状況でも“声”という楽器を連れて行動しなければならないので、自ずと不摂生も深酒も控える健全な生活…ということになります。(できる範囲で、ですが!!)

“歌うということ”。それは、すべての人が生まれながらに、その人自身の楽器と音色を携えている、本当にシンプルな、とてもパーソナルな、場所を限定されない分とても自由な、そして例えば、初めて耳にする音楽は母親の腕の中で聴く子守唄だったかもしれない…というように、とてもインティメイトなことのように思います。ですから、コンサート会場に足を運んでくださったお客様が、“歌うように”共鳴し、その空間、その瞬間に生まれる音楽を楽しんでくださることを願いつつ、歌い続けていきたいと思います。



幸田浩子(こうだ・ひろこ)／オペラ歌手

東京藝術大学首席卒業。同大学院、オペラ研修所を経て渡欧。数々の国際コンクールで上位入賞後、ローマ歌劇場をはじめ欧洲の名門歌劇場へデビュー。2000年ウィーン・フォルクスオーパーと専属契約。国内では新国立劇場、二期会の舞台で主役級を演じる他、全国各地でのリサイタル、BSフジ「レシピ・アン」のMCなど多彩な活動を展開。15年、7枚目のCD『スマイルー母を想うー』をリリース。今後は7月東京二期会『魔笛』パミーナ、8月びわ湖ホール『竹取物語』かぐや姫で出演予定。第14回五島記念文化賞オペラ新人賞、第20回エクソンモービル音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。二期会会員。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損害保険ザ・フェニックスホールをフェニックススター内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損害保険ザ・フェニックスホール  
Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2015年7月  
発 行 あいおいニッセイ同和損害保険ザ・フェニックスホール  
編 集 吉元 晃  
デザイン 松井桂三有限会社

